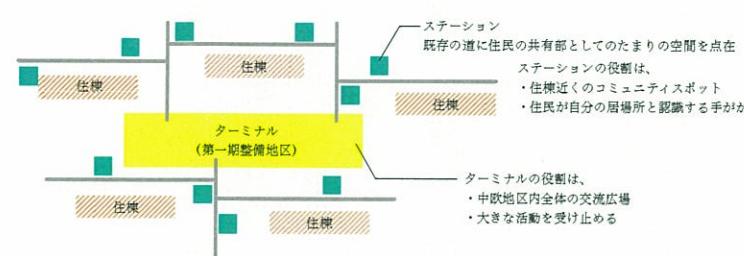
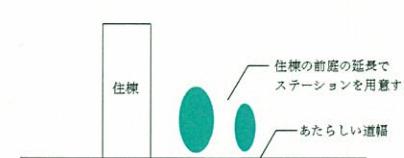


「左近山団地ネットワークガーデン」 左近山の財産である緑豊かな外部環境を活かし、多様なライフスタイルを受入れるよう再編集することで、多世代住民みんなが愛着と誇りをもつ“ネットワーク型の庭”を提案します。

団地全体がひとつになる日常的にコミュニティを育む外部空間
既存の道を活かしたステーションとターミナルの関係がつくるネットワーク型の庭

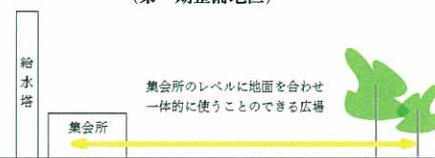


道のエッジを操作してつくるステーション



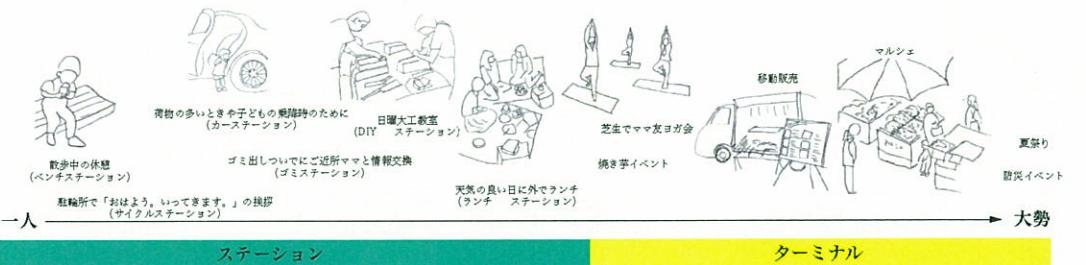
移動目的の道にステーションと名付けたたまりを用意することで、団地の住人同士が日常的に顔を合わせて、交流をはかるきっかけを外部環境として提案します。

地面のレベルを操作してつくるターミナル (第一期整備地区)



地形の豊かな左近山団地において、この第一期整備地区はフラットにつかえて、視界の開けている貴重な場所です。段差を無くして緩やかに周囲とつながることで広場としての価値を明確にします。

住戸単位から中央地区全体の単位まで、人の集まり方に適した多様な外部環境を設える



□ I期整備地区の計画内容

- ・中央地区全体のコミュニティの拠点となる“広場”として整備します。
- ・広場ができることで、隣接する集会所がよりひらいた建物となります。
- ・通学路として親しまれている「一号線」を拡幅してメインロードとします。
- ・周囲との境界を丁寧につないでいき、広々とした外部空間とします。

中央地区の地形の頂上に位置するこのエリアは、車道や住棟間を繋ぐ歩道が交わる場所でもあります。外部空間全体で提案した「ステーション」のある道は、この「ターミナル」と名付けた広場に通じています。現況は段差やフラットでない面が多いので、とにかくフラットに大きくつかえる広場を提案します。大きくつかえる広場は、住人の交流やイベントを支えます。また、段差を解消してフラットにすることで、集会所と広場が一体的につながります。今まで数段下がった場所にあった集会所が明るく、中の様子も広場へのぎわいとして参加します。

広場の地表面は、芝生、アスファルト、デッキとパターンを設けます。アスファルトのエリアは、車も入れるのでイベント時に販売車が来たり、軽トラマルシェの開催、さらにはディケアサービスの送迎場所にもなる可能性があります。芝生やデッキは日常的に子育て世代を含めた住みみんなが思う想いに過ごすことのできる仕上げです。整備対象を地面のみに限定していますが、段差の無い快適な外部環境をつくり、周辺ともつながりをもつことで広々とした広場になります。ここが、左近山団地中欧地区全体の交流広場としてのシンボル的な場所として育していくことを期待します。



第一期整備地区平面図 (1/500)



□ コミュニティ活性化に資する空き家活用“間取りのカタログ企画”

アンケート調査の結果にもあらわされているように、同じ間取りが基本となってつくられた団地には、今、多様な住戸が求められています。個人や家族のライフスタイルにあわせて住み方が選択できる間取りを左近山団地の活性化を目標とした企画とし、住戸オーナーに提案できる仕組みとします。住戸オーナーは、住んでほしいターゲットや間取りの変更に必要な金額などのバランスを見て、この企画に参加します。左近山モデルのデザインをオープンにすることで、多様な間取り（ライフスタイル）が集まっていることが魅力的であることもつながります。具体的な間取りの方針は、以下の2点から導きます。

1. 階によるキャラクターの設定（外部の風景・上下動線）／ 2. 若い世代のライフスタイルを想定したターゲットの設定

プラン例1)

プラン例2)

プラン例3)

プラン例4)

プラン例5)



□ 外部空間の考え方

「ターミナル」と名付けた広場（I期整備地区）と、「ステーション」と名付けたコミュニケーションスポットとなるたまりの空間を提案します。「ステーション」は既存の道に沿って点在し、既存の道が住民同士のネットワークとなり、その延長に広場があるという構成とします。「ステーション」は、散歩中に休憩できるベンチが置かれていたり、DIYなど住戸内では叶えきれない活動も支えます。また、既存のゴミ収集所や駐輪場もステーションに組み込み、1棟ほどの規模感で各ステーションを共有する仕組みとします。大きな計画変更是していませんが、住人の動線が活発になり、共有感を体感できる外部空間を創出します。

